

学校経営の基本的な考え方

総合自己 総合学校関係者

- 【1】スクールミッション（目指す学校像）
 ○「人ありて技術」を教育理念とし、先進技術を含めた高い専門力を身に付けさせ、心身ともに健全で調和のとれた人間性を目指す学校
 ○多様な選択科目が設定された教育課程により、国公立大学を含めた進学や、専門性を活かした就職が可能なハイブリッドな工業教育を目指す学校
 ○広い視野を持ち、本県や日本、国際社会の持続可能な発展に貢献できる人材の育成を目指す学校
- 【2】グラデュエーション・ポリシー（目指す生徒像）
 「人ありて技術」の教育理念の基、情報技術をベースとした専門高校として、豊かな心・確かな学力・専門的な知識・技能の向上に努め、将来を担うスペシャリストの育成、地域産業を担う人材の育成、人間性豊かな職業人の育成を目指します。
 ○主体的に考え行動し、自己教育力をもつ生徒 ○仲間と協力し、健康で心豊かな生徒 ○豊かな感性を持ち、文化や技術を創り出す生徒

3.2

3.6

番号	重点目標	達成手段	○：成果と ●：課題	自己評定	学校関係者評定	学校関係者コメント	
1	学力向上の推進と進路実現	(1) 学習習慣の育成と授業力向上の推進 ① 学習の仕方の指導 (学校・家庭での学習の習慣化、ICT活用) ② 授業の積極的参加 ③ 授業研究会の充実 ④ 教育課程の工夫改善 ⑤ ICT教育の充実 (BYOD、Classi等) ⑥ 授業改善と学習評価	○1、2学期末に成績不振者を集め、教育相談会を実施した。学力向上に向けての説明や、不振科目教科担任より効果的なアドバイスや指導、グーグルによる課題配信、自己学習力の育成の向上。 ○授業参観期間を設定し、1学期は「ICTを活用した他の職員の授業を参観」、学習のねらいや学習の流れを明示し、ICTも導入し分かり易い授業を実施。2学期は、10/24～11/4に「ICTを活用した主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業力向上の目的で実施。 一人一台端末導入により、主体的に授業に取り組む生徒が増え、自己教育力の向上がみられた。また、ICTの活用により、授業や実習において、教材の工夫改善がみられた。 ○11月4日にICT授業公開を実施し、校外の教育関係者約45名の参加があり、各教科での効果的な使い方を紹介し、外部の方から前向きな評価をいただいた。 ○教育課程説明会では、類型と進路・課外について丁寧に説明を実施。 ○年7回のICT職員研修は、GoogleworkSpaceやClassi等での各教科の活用方法や学習評価について研修を実施。スキルアップも図れ、生徒の個人持ち込み端末(スマホなど)を授業や自宅学習や学びの保障等に活用。 ○次年度に向けて、観点別学習状況の評価の方法について、各教科ごとの観点別評価の検討。 ●Classiの導入により、各行事の振り返りなどを入力し、ポートフォリオとして記録や、保護者もアクセス可能になったが、Classiの活用による学習の効率にむけた研修計画を検討。 ●2学期に2回自立学習調査を実施。10日間で1500分を目安に目標時間を設定し、主体的な学習に取り組ませた。1・2年生はClassiで調査を入力させた。学年平均は1年1109時間、2年生1222時間、3年1698時であった。学習意欲を高めるためにも次年度も継続する。	3.1	3.1	4.0	(1) ① グーグルの活用など、新しいことに取り組むことは素晴らしい。 ① 成績不振者に対する相談会、アドバイス・指導は、御校の目標でもある「一人ひとりを伸ばす」に沿った、素晴らしい取り組みであると思います。 ② ICT端末が本格的に導入され、積極的に活用される意欲が見て取れます。生徒の学力向上だけでなく教職員の負担軽減、ひいては効率的な学校経営にも大きく寄与するものと思います。試行錯誤が続くと思いますし、そういった取組の成果をどのように把握し、どう評価していくのも難しい課題だと思います。本校が本県のパイオニア校・リーディング校となられるよう期待します。 ②主体的に取り組むという難しい課題に対し、成果がみられるのは素晴らしいことだと思います。ICTを活用した授業は、生徒が授業に積極的に参加する、また生徒も先生方も楽しみながら効率的な学習ができるなど、多くのメリットが考えられます。これからの活用が楽しみになります。 ③ICT活用に特化した御校ならではの取り組みであり、授業力向上の目的に対して、「主体的に学ぼうとする生徒が増えたこと」や「公開授業による外部からの前向きな評価」など確実に実績として表れているものと思います。 ⑤職員の方々も研修を重ねスキルアップに取り組んでいることは素晴らしいことだと思います。 ⑥ICT教育の進化により、生徒の学習意欲の向上だけでなく、職員の方の業務効率アップも期待できるかと思えます。それぞれの効果による新たなシナジーへとつながることを期待します。 ⑥自立学習調査の結果については、活動の継続に当たって、目標達成に向けて何が不足していたのか、課題を明確にして取り組んでいただきたいと思います。

番号	重点目標	達成手段	○：成果と ●：課題	自己評定	学校関係者評定	学校関係者コメント
1	学力向上の推進と進路実現	<p>(2) 資格・検定取得、コンクール等の参加推進</p> <p>①個人指導と特別指導</p>	<p>【電子機械科】</p> <p>○初級CAD検定試験67名/71名、機械製図検定 56名/80名、基礎製図検定39名/74名、ガス溶接技能講習修了17名/18名が合格。</p> <p>○ジュニアマイスター懸賞制度では、3年生：特別表彰2名、ゴールドを4名が取得。</p> <p>【通信工学科】</p> <p>○第二種電気工事士は、通信工学科2年生が全員受験。上期試験結果 合格数/受検者= 17名/31名、1次試験(筆記試験)10/3, 結果・・・8名/18名、2次試験(技能試験)</p> <p>【情報技術科】</p> <p>○情報処理技術者試験では、3年生：現在までに基本情報技術者試験に11名、ITパスポート試験に5名、情報セキュリティマネジメント試験に2名合格。2年生：基本情報技術者試験4名、午前免除試験1、2回目合わせ32名が合格。</p> <p>○ジュニアマイスター懸賞制度では、3年生：特別表彰1名、ゴールドを4名、シルバーを7人、ブロンズを1人が取得。</p> <p>【産業デザイン科】</p> <p>○2年生は、7月末に Illustrator クリエイター能力認定試験に31名/41名が合格(77.5%)。Photoshop クリエイター能力認定試験に33名/50名が合格。</p> <p>●全国レベルでのコンクール入賞が少なかった、SKTなどを活用して合格者率の向上に取り組む。</p> <p>●国家試験においての出願等手続きがインターネットを利用した形式に変更され、事前に説明して出願。</p> <p>●第二級デジタル通信(CBT方式)受験は、生徒各人で受験日が異なるため、受験日の確認が必要。</p>	2.8	3.1	<p>3.3</p> <p>(2)</p> <p>①難易度の高い資格・検定もあると聞いておりチャレンジすることにより知識も深まり、更に合格者もいることは素晴らしい。</p> <p>①資格取得への取り組みについては、各科ともに積極的にチャレンジされている様子を伺うことができます。生徒にとっては、成功体験を積む良い機会ですし、就職活動などでのアピールアイテムにもなります。継続した資格取得への促進をお願いします。</p> <p>①インターネットでの申し込みや受験日など、ICTを活用して生徒自身または職員が管理できるような仕組みを構築されてはいかがでしょうか。</p> <p>①本校の資格取得やコンクール・公募展などでの活躍はよく新聞等でも拝見するところであり、素晴らしい。</p> <p>① 資格取得や公募展受賞等は実業系高校で学ぶ目標の一つであり、生徒の関心やモチベーション、進路等にも大きく影響してくると思います。時代社会経済情勢の変化とともに求められる技術や資格も変わってくると思いますので、学校におかれては最新の情報を収集し、生徒に対し一層の情報提供や指導をしていただければと思います。</p> <p>① コロナ禍での活動が制限されている中、試行錯誤しながら頑張っておられる事に感謝いたします。</p> <p>① 多くの生徒が、資格・検定取得に向けた挑戦をしており、目指す進路に向け努力していることに感心しました。その結果においても、大きな成果が上がっている。</p>
		② さくじらタイムの充実	<p>○行事等の変更もあったが、計画通り実施。</p> <p>○学科の全生徒を対象に Google フォームや安心・安全メールを活用した資格・検定試験の日程案内を周知。</p>			

番号	重点目標	達成手段	○：成果と ●：課題	自己評価	学校関係者評価	学校関係者コメント	
1	学力向上の推進と進路実現	<p>(3) キャリア教育の推進、ものづくり教育の推進</p> <p>①就職・進路面談・指導、進路手引き等の活用</p>	<p>○夏期休業期間中などを利用し生徒・保護者・担任による三者面談を計画的に実施。また、就職支援コーディネーターと連携して最新の企業情報を生徒に還元するなど、効果的な指導の取組。</p> <p>○県内企業については、企業パンフレットやネット情報に加えて、詳細な企業情報の提供等を進路面談等において、就職支援エリアコーディネーターにサポートを依頼。</p> <p>○個に応じた進路指導において、正担任を中心にして、就職・進学指導を実施。</p> <p>●進路選択において、インターンシップで大きな効果が得られたと感じる。3年次の進路決定までに経験を積むため、企業の方の講演会や見学などを積極的に進路指導に活用。</p>	3.6	3.1	4.0	<p>(2)</p> <p>① 就職・進学において多様性が増しているように感じます。今後も引き続き就職支援コーディネーターとの連携を強化してほしいです。</p> <p>① 自分に合った就職、進学の実現に向け、生徒本人の進路決定能力を磨くことに努められていると感じたところです。</p> <p>① 早期のキャリアプラン構築は、主体的な生徒の学びや進路選択にも重要な役割をもっています。三者面談の実施や常駐されているエリアコーディネーターの活用など、真摯に取り組まれていることは感じました。</p>
		②他団体との連携	<p>○1年生の企業見学会を全学科7月に実施し、県内企業について理解が深化。</p> <p>○4年ぶりに全学科とも、2年生のインターンシップが実施できた 職業観や勤労観の育成など、将来の進路選択に有利。</p> <p>○宮崎大学工学部との高大連携（工業高校生のインターンショップ等）、日産自動車(株)による技能五輪紹介デモンストレーションを2/16に実施。</p> <p>○美術系大学等説明会が3年ぶりに再開され、1、2年生が進路について深く考える機会を提供。</p> <p>●クライアントワークや地域行事などは、関係学科や部活動の顧問に負担。</p>				<p>② 進路に直結する取組であり、生徒や保護者には最も関心の高いところだと思います。本校は工業系実業高校でありながら、進学希望の割合も高いことから、ご苦労も多いと思いますが、進学・就職ともに対応しておられ、その実績・成果も評価できると思います。</p> <p>② インターンシップも進路選択を考える機会として大きな効果が期待できますが、実際の実習内容については企業の方針によっても様々であると思います。職業観や勤労観といった基本的な部分はどの企業においても大きな差はないと思いますが、就職先の検討としての位置づけとして一歩先のインターンシップを実施するにあたっては、その目的や生徒に学ばせたい項目を各企業担当者としてしっかりと整合し実施することが重要。</p> <p>② 生徒が適切な職業観や多くの企業情報を習得・獲得できるよう努めていただいております。就職・進学後の人生が円滑に進められるよう、引き続き、生徒の希望や個性に応じて指導・相談に取り組まれるよう希望します。</p>
1	学力向上の推進と進路実現	<p>(4) 読書活動の推進</p> <p>①朝の10分間読書、図書委員会の充実</p>	<p>○1学年は、学校生活のスタートが落ち着いた雰囲気スタートできた。2学年では副担任主導で実施し、担任負担の軽減を図った。3年生は就職・進学先が決まるまで自主学習とし、進路決定後は読書を実施。</p> <p>○「朝の読書」に関しては全職員の協力で実施。3年生は毎週木曜日に新聞記事の切り抜きを配付。</p> <p>○清掃・カウンター当番・蔵書点検・POPや図書だより作成と活動が多いが順調に実施している。図書委員会の内容やレジュメ等も委員長を中心に自主的な活動を実施。</p> <p>○図書に関する問い合わせに即時対応している。また、課題研究に関する図書や進路に関する図書や積極的に購入。</p> <p>●2学期の「読書旬間」時に掲示するPOPの作成について昨年度の反省を踏まえ改善したが、貸出にはつながらなかったため、次年度に向けて図書委員で検討。</p>	3.0	3.1	3.3	<p>(4)</p> <p>①想像力を磨く・脳の活性化・知識や読解力を高めるといった意味でも朝の短い時間で継続的に取り組むことは素晴らしいことだと思います。紙での読書による手軽さ、目への軽減というメリットもありますので是非継続していただきたいです。</p> <p>①朝の10分間読書は、学校生活のスタートが落ち着いた雰囲気の中で始めることできるとともに、「みんなでやる。」「毎日続ける。」など効果があるとも感じました。</p>

番号	重点目標	達成手段	○：成果と ●：課題	自己評定	学校関係者評定	学校関係者コメント	
2	人間力の育成	(1) 生徒の悩みを早期に発見し、迅速に対応する。	○学年団の協力もあり、日々の検温表記入や黙食指導などを計画的に実施。昼食時の黙食の実施。	3.0	3.3	3.3	(1)
		① 日常の観察	○毎月1回のカウンセリング委員会では、生徒の情報共有し、組織的な対策対応や教科担任会等で支援計画を作成。				① 人権や規範意識については、今後の社会生活においても重要な課題であると思います。意識を高め、知識として有するだけでなく、生活や様々な場面で実践できるよう期待します。
		② いじめアンケート	○1学期・2学期は1～3年生に実施、3学期は Google Forms を活用して、1・2年に実施し、問題の早期発見・指導を実施				② 昨年10月に文部科学省が発表した調査結果において、宮崎県内の国公私立小中高校、特別支援学校のいじめ認知件数は3年連続で全国一と発表されています。「初期段階からの積極的な認知によるもの」ということですが、基本的には「いじめを発生させないこと」に注力すべきであり、継続的な教育の実施による未然防止への取り組みをお願いします。
		③情報共有	○正副担任による教育相談、学年会での情報交換、カウンセリング委員会の定例化、いじめアンケートなど問題の早期発見・指導を組織的に実施。				③ 定点でのアンケートに加え、常日頃から相談しやすい窓口の設置など問題が大きくならないうちにピックアップできる体制の整備も検討されてはいかがでしょうか。
		③ LHR 活用 (人権教育)	○1年生のより良い人間関係作りのためのピアサポート・性教育講話、2年生のLGBTに関する講話を2月に実施、3年生は就職差別についての人権教育を実施。				④ 性的マイノリティや障がい者も社会に出れば同じように活躍できる機会は無限にあります。当事者については教育相談の充実、周囲に対しては多様性への理解を深めていただく機会の継続をお願いします。
			●問題を早期発見するために、教育相談旬間の面談などを充実させる。また、日常的な情報の共有を図り、対応を協議。 ●悩みを抱え身体に不調お生徒もいるため、引き続き、教育相談部をはじめ、担任の先生方との情報交換の共有。				④ 人権や規範意識については、今後の社会生活においても重要な課題であると思います。意識を高め、知識として有するだけでなく、生活や様々な場面で実践できるよう期待します。
		⑤特別支援教育 (通級指導)	○教科担任会などの時間を出来るだけ確保し、障がいの理解や情報共有。 ○視聴覚室の一面に通級指導や面談等を行う部屋が設置され、指導に活用。 ●通級に対する認知度を高め、利用しやすい環境を整備。				
(2) 規範意識を高め、生活のリズムを確立する。	○各学期の期末テスト期間中に1・2・3年生の保護者によるPTA朝の挨拶運動を実施し、多くの参加協力があった。また、生徒のあいさつが良いと評価。	3.0	3.0	(2)			
①あいさつ	○定期的実施する登校指導を通して5分前登校を呼びかけている。また、集会時や実習時においては集合時間の厳守。			① 評議員会や採用活動のため御校を訪問させていただく機会がございますが、その度に生徒さんの元気な挨拶は大変気持ちよく感じます。PTA活動における素晴らしい成果だと思います。			
② 時間を守る	○交通指導を年3回、担当の職員の協力により実施。			① 学校をお伺いする度に、生徒さんからの元気なあいさつをもらい、こちらも元気なあいさつを返しています。			
③校内清掃の専心	○清掃時間は熱心に清掃、終了時に反省会を実施し、奉仕の心を育成する清掃活動の取組。 ○教室からのゴミは非常に少なく、個人のゴミ持ち帰りが浸透している。職員室や実習室からのゴミも減少。今後も生徒・職員全体でゴミの減量に協力依頼。 ○緑と花のある清潔な教育環境を創造し、3年生クラスにプランターを設置。花の管理を各クラスに依頼した。芝の管理が行き届かない時もあるが、生徒・職員全員で美化・清掃活動を徹底。 ●校内の花プランターの設置し、昨年同様ひまわりの取組を進め、美化委員も積極的に管理作業に取り組んだが、台風の影響を受け、うまく咲かせることが出来なかった。次年度も継続。			③ 整理整頓された、清潔感のある校舎・教室だと感じています。気持ちよく使うことの喜びの醸成を引き続きお願いします。			

番号	重点目標	達成手段	○：成果と●：課題	自己評定	学校関係者評定	学校関係者コメント
2	人間力の育成	(3) 相手を思いやる心を育て、望ましい人間関係を醸成する。	○学校行事に意欲的に取り組もうとする生徒の増加。 ○1 学年はミックスホームルームによって、他学科の生徒との人間関係が築けた。また、1 年生のより良い人間関係作りのためのピアサポートを実施。	3.2	4.0	(3) ③銀麗祭では、万全な感染対策の基、生徒の知恵や工夫を感じられ、大変素晴らしいイベントであると感じました。生徒一人ひとりが楽しんで参加しているのが印象的でした。 ③銀麗祭は3年ぶりの開催とのことでしたが、無事に開催できたことが何よりの成果だと思います。 ③銀麗祭のステージ発表及びクラス展示では、企画立案から当日の運営までを、生徒が自発的かつ積極的に行っており、素晴らしい文化祭でありました。
		①1年 MHR、				
		②学校行事の工夫	○学校行事は望ましい人間関係を醸成する良い機会。新型コロナの影響があったが、感染症対策を講じながら、日程の縮小、実施時間の短縮、分散開催など工夫して実施。			
		③生徒会活動活性化	○体育大会、銀麗祭、クラスマッチについては、コロナ感染等の対策を講じて実施。また、芸術鑑賞教室は、分散開催にて佐土原文化ホールで「演劇」を実施。 ●集会時の話を聞く態度や、移動時の時間を守ろうとする意識、窓や扉の施錠への気遣い等、改善強化。			
		(4) 部活動の充実	○運動部では、男子テニス部やウエイトリフティング部、バスケットボール部、水泳部、ラグビー部等の活躍。 ○テニス部は日本代表の電子機械科1年生が、8月の全日本ジュニアテニストーナメントに出場し優勝。また、日本テニス協会のジュニア強化選手に電子機械科2年生がジュニア国際大会に出場。 ○ウエイトリフティング部の情報技術科3年生が10月の国民体育大会に出場し5位入賞。 ○文化部では、弦楽部が8月に全国大会に出場し活躍。 ○生産部では、通信技術部はマイコンカーラリー全国大会準優勝、エコカー部は2022EnergySUZUKAチャレンジKV-40部門で技術賞、情報技術部は最優秀賞(国土地理院主催 GEO アクティビティコンテスト)、デザイン技術部はG7 農業大臣会合のポスターコンテスト最優秀賞などの各学科の技術部が活躍。	3.3	4.0	(4) ・男子テニス部や情報技術部などの活躍ぶりは新聞等でうれしく拝見しました。入賞に至らずとも健闘している部活動もあり、懸命に取り組む姿勢・過程も評価したい。 ・地域への明るい話題作りとして、各部が素晴らしい活躍をされていると思います。 ・佐土原高校のご活躍は、新聞等でよく目にしております。今後の活躍を期待し楽しみにしています。 ・男子テニス部や情報技術部などの活躍ぶりは新聞等でうれしく拝見しました。入賞に至らずとも健闘している部活動もあり、懸命に取り組む姿勢・過程も評価したい。 ・部活動での活躍は、地域を元気に、明るくすることから、今後とも活躍を期待しています。
3	体育・健康教育安全指導の推進 交通事故ゼロ けが10%減 体力県平均以上	(1) 基本的な生活習慣の育成に努め、健康や安全への意識を高める	○学年団の先生方のご協力により、日々の出欠・検温表記入や黙食指導などを計画的に実施。 ○1 年生に「性教育講話」を実施。命の大切さについて考えさせる機会を提供。	3.0	3.3	3.3
		①健康教育の推進	○定期的に「ほけんだより」等を発行。健康に関する情報の発信。			
		②新型コロナ対策	○保健委員会活動を通し、手洗い・消毒・換気の徹底など新型コロナ感染予防の徹底。昼食時の黙食指導など、校内での感染予防の意識が向上。今後も動向に注視しながら、マスク着用、消毒・手洗い、換気を徹底。 ○昼食時間では学年団の先生方の協力により巡回指導を実施した。今後も、継続した感染対策を実施。 ○部活動においても、スポーツマスクの着用推奨や器具消毒等の感染対策を実施。 ●年度当初よりコロナ等との関係で欠席(出席停止含)が多い傾向がみられた。今後は、生徒の体力や栄養状況、休養のバランスなどについての啓発指導が必要。			(1) ①健康や保健衛生のことは、生涯にわたる大きなテーマですので、粘り強い取組・啓発が重要だと思います。 ①新型コロナの第5類への移行が決定され、来年度はコロナ前のような状態に戻っていくものと思いますが、これまでの対策をどのタイミングでどのように制限を解除していくかが、先生方への悩みになるうかと思えます。今後の動向も注視しながらご対応いただければと思います。感染拡大につながらなければ良いと懸念している所です。一人一人が対策を徹底して下さい。 ①健康や保健衛生のことは、生涯にわたる大きなテーマですので、粘り強い取組・啓発が重要だと思います。 ②新型コロナへの対応が緩和されているが、脅威自体は変わっていないので感染症対策を引き続き留意しながら柔軟に対応して欲しいです。

番号	重点目標	達成手段	○：成果と ●：課題	自己評定	学校関係者評定	学校関係者コメント	
3	<p>体育・健康 教育安全指 導の推進</p> <p>交通事故 ゼロ</p> <p>けが10%減</p> <p>体力県平均 以上</p>	<p>(2) 体育学習の充実や 運動の日常化を目指 して、体力を向上させる。</p> <p>①体力向上プランの策 定、体育的行事の充実</p>	<p>○体づくり運動の授業で体力の構成要素や高め方について、知識を提供。</p> <p>○体育大会はコロナ感染対策のため半日開催で、3年保護者のみ観戦の形での実施。</p>	3.5	3.3	3.3	<p>※</p> <p>(2)</p> <p>① 今年度もコロナの感染状況を注視しながらの活動を余儀なくされたと思いますが、そのような中での部活動の優秀な成果を修めたこと、体育大会については保護者にとっては最後の体育大会を観戦することができたことは、日頃の感染対策への取り組みの成果によるものであると思います。</p> <p>① 体育大会は県の方針や、他校の状況を見ながら3年生の保護者だけでなく、1・2年生の保護者の観戦も検討してほしい。</p> <p>① 体育・健康教育では、生徒が健康に関する知識を身に付け、進学・就職後においても、体力づくりに努めていただきたいと思います。</p> <p>② 県外出身の生徒のために、下宿・学生寮の事が話に出るのですが、もっと前向きに検討してみたいはかがでしょうか。剣道部の話題に上がらないのは？もっと頑張ってもらいたい。</p> <p>① ②通学に伴う安全確保などご苦労も多いと思いますが、生徒や教職員の安全・安心の確保は最優先の課題であり、地域との関係構築等も重要であると思います。生徒への啓発・指導とともに、関係機関とも連携して取組がなされており、引き続きの取組をお願いしたい。</p>
	<p>②部活動の充実</p>	<p>○テニス部やウエイトリフティング部等の運動部活動生の活躍を県内外に発信。</p>	<p>3.0</p>				<p>3.3</p>
	<p>(3) 安全教育の推進</p> <p>①学校安全教育推進</p>	<p>○保健体育部、生徒指導部、教育相談部、環境美化部を中心に、生活安全、災害安全、交通安全に伴う各種行事を専門機関等の協力を得て実施。</p> <p>○防災訓練(5/13避難経路確認)、防災講話(7/7宮崎地方気象台)緊急地震速報訓練(11/2シェイクアウト)、避難訓練(11/24火災避難、初期消火)を実施できた。訓練時だけでなく日頃から避難経路の確認を含め防災意識の涵養に努め、外部専門機関と連携協力。</p>	<p>3.0</p>	<p>3.3</p>	<p>3.3</p>	<p>①防災訓練などの防災意識向上への取り組みは、継続して実施ください。南海トラフ地震への脅威が高まるなか、通学時や在宅中に巨大津波が発生した場合を想定した初期行動を考えさせることも自身の命を守る機会になると思います。</p> <p>①防災とは、災害を防ぐ事です。教育を受けても事がおきなければ、あわてます。自分の命は自分で守る。日頃から自覚してほしいものです。</p> <p>① デジタル化が進む一方で、情報漏洩のリスクは高まっています。不信なメールは開かないなどの意識を高めるためのメール訓練なども効果的かと思います。</p>	
	<p>②交通事故撲滅</p>	<p>○登校時の交通立番指導を毎学期実施。警察署と連携した交通教室を実施。</p> <p>○交通指導を年3回、担当職員の協力により実施し、交通安全の啓発。</p> <p>●斜め横断や下り坂でのスピードを出す生徒がおり、立ち番箇所を変えて指導を行った。継続していくことで、マナーの向上を図る。また、交通委員会を通じた交通マナーの徹底。</p>	<p>3.0</p>	<p>3.3</p>	<p>3.3</p>	<p>①防災訓練などの防災意識向上への取り組みは、継続して実施ください。南海トラフ地震への脅威が高まるなか、通学時や在宅中に巨大津波が発生した場合を想定した初期行動を考えさせることも自身の命を守る機会になると思います。</p> <p>①防災とは、災害を防ぐ事です。教育を受けても事がおきなければ、あわてます。自分の命は自分で守る。日頃から自覚してほしいものです。</p> <p>① デジタル化が進む一方で、情報漏洩のリスクは高まっています。不信なメールは開かないなどの意識を高めるためのメール訓練なども効果的かと思います。</p>	
<p>③情報漏洩防止</p>	<p>○情報モラル教室を11/10に、全校生徒を対象に体育館で実施した。集会の度に注意喚起。</p> <p>○10月から「ICT教育通信」をデジタル発行し、学校でのICT活用や情報モラルについて保護者・生徒への周知。</p> <p>●情報モラルの対応。来年度からは、早い段階で情報モラルに関する全体指導を関係機関と連携して計画。</p>	<p>3.0</p>	<p>3.3</p>	<p>3.3</p>	<p>①防災訓練などの防災意識向上への取り組みは、継続して実施ください。南海トラフ地震への脅威が高まるなか、通学時や在宅中に巨大津波が発生した場合を想定した初期行動を考えさせることも自身の命を守る機会になると思います。</p> <p>①防災とは、災害を防ぐ事です。教育を受けても事がおきなければ、あわてます。自分の命は自分で守る。日頃から自覚してほしいものです。</p> <p>① デジタル化が進む一方で、情報漏洩のリスクは高まっています。不信なメールは開かないなどの意識を高めるためのメール訓練なども効果的かと思います。</p>		
<p>④環境整備</p>	<p>○校内整備を計画的に施行し、整備が進んだ。</p> <p>○コロナ感染対策指導のための整備。(トイレの洋式化、消毒液等の整備)</p> <p>●施設の修理は、安全面で必要なところ危険性があるところの優先的に修理。</p>	<p>3.0</p>	<p>3.3</p>	<p>3.3</p>	<p>①防災訓練などの防災意識向上への取り組みは、継続して実施ください。南海トラフ地震への脅威が高まるなか、通学時や在宅中に巨大津波が発生した場合を想定した初期行動を考えさせることも自身の命を守る機会になると思います。</p> <p>①防災とは、災害を防ぐ事です。教育を受けても事がおきなければ、あわてます。自分の命は自分で守る。日頃から自覚してほしいものです。</p> <p>① デジタル化が進む一方で、情報漏洩のリスクは高まっています。不信なメールは開かないなどの意識を高めるためのメール訓練なども効果的かと思います。</p>		

番号	重点目標	達成手段	○:成果と●:課題	自己評定	学校関係者評定	学校関係者コメント
4	家庭・地域との連携 (広報活動含む)	(1) 学校からの情報の発信に努め、学校教育への理解を深める。 ① オープンスクールの充実、メディア戦略、HP充実、広報等	○体験入学やオープンスクールでは教務部と連携をとりながら3年生の補助員を中心に実施。 ○8月の体験入学は、Google フォームでの個人申込みを導入し集約等が円滑になった。60校549名。アンケート結果では、志望校が決まっている62.9%の生徒の内、83.3%が佐土原高校を希望し、中学生・保護者から嬉しい感想が多数あり。 ○11月のオープンスクールは、37校、164名が参加、部活動の見学・体験を実施し、参加生徒の約半数が希望。 ○新聞は現時点で80回の掲載がされている。テレビ等でもICT活用授業や部活動、台湾との交流、卒業制作展などの話題が取り上げられた。また、宮崎県教育委員会 Twitter への投稿等を20回更新。 ○渉外厚生広報部で発信記録を集約し継続的・組織的な広報活動を推進。 ○安心安全メールにおいては、コロナ関係、クラス担任や事務室、PTA関係、部活動などで活用。	3.3	4.0	(1) ① 佐土原高校の発信力は、生徒や教職員の活躍により相当高いものがあると思います。OB・OGの活躍もよく聞きます。 ② 新聞やテレビなどのメディアにおけるPRも良くされていることも、体験入学やオープンスクールにおける参加者数や入学意欲向上への効果として表れていると思います。引き続き、佐土原高校の魅力を発信していただきたいと思います。
		(2) 地域の素材や人材を教育活動に積極的に活用する。 ① 大学、企業、県工業技術センター、佐土原町等	○宮崎大学情報通信工学プログラム研究室訪問に2年進学希望生徒が参加し、大学研究や講義の一端を体験。 ○神武さまマップアプリの宮崎商工会議所との共同製作。 ○宮崎県人権擁護委員協議会の人権擁護に関する動画作成。 ○九州中川ヒューム管工業(株)の工場壁画制作への参加協力。 ○木城町見守り隊のロゴマークデザイン制作に協力。 ○宮崎県警察本部 サイバー犯罪対策課マスコットデザイン協力。 ○みやざき納涼花火大会ポスターデザイン協力。 ○みやざき中央支援学校作品展「共生アート展」のポスターデザイン協力。 ○G7宮崎農業大臣会合ポスターコンクール 産業デザイン科2年生が最優秀賞を受賞。	3.0	4.0	(2) ① 工業技術センターにも、機械電気やデザインの研究員が在籍し、ものづくりやデザイン等に活用できる機器もありますので、活用ください ① 神武様アプリはニュースでも大きく取り上げられ、産業デザイン科においては様々な場面でのデザイン協力をされており、積極的な地域活動への参加が来ていると思います。
		(3) 海外との交流 ①台湾 東勢工業高級中等学校、私立大同高級中学の交流活動推進	○7月に姉妹校である台湾、東勢工業高級中等学校との交流では、テレビ会議システムでの交流やオンライン交流会を実施。東勢工業高等中等学校の9月入学の新生徒に向けて祝賀メッセージ作成を録画して送信。 ○10月に台湾姉妹校(台中市立東勢工業高級中等学校)とのテレビ会議を実施。 ○12月に台湾東勢工業中等高等学校と1学年オンライン交流会を実施した。1学年214名と東勢工業高等中等学校第1学年180名がオンラインにて交流会を実施。6つのグループで学校紹介、宮崎の観光スポットや宮崎や日本の美味しい食材の紹介。	3.0	3.0	(3) ①海外を志向する生徒もいると思います。また多くの交流が身近に暮らし、来県するいらっしゃる時代です。海外への関心を高め、プレゼン能力の向上にも寄与すると思います。継続した取組を希望します。 ①対面での交流ができない中、苦勞しながらの交流活動であったかと察します。来年度以降については、ぜひ対面での実施を検討していただき、海外の魅力を感じていただき、グローバルで活躍したいという動機につながっていくことを期待します。 ①海外との交流は、生徒の異文化理解や国際的視野を広げるための貴重な体験となることから、今後とも交流の活発化を図ってほしいと思います。